

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和4年

6月23日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

生徒の皆さんへ 『想』～相手の心を考えること～

副校長 大田 雅裕

中学生の皆さんは『平等』という言葉について疑問に思ったことはありませんか。『平等』とは「偏りや差別がなく、みな等しいこと」を意味するそうです。でも、私たちは、この世の中にまったく同じ人が一人もいないことも知っています。では、『平等』とはいったい何なのか考えてみたいと思います。そのヒントを得るために、ここで問題を出します。(引用：YouTube 養老孟司の部屋「人間は平等か？」)

<問題>

あなたは2歳の子と5歳の子と一緒にいて、目の前にまったく同じ2つの入れ物AとBがあります。まず、女の子がやってきます。Aの入れ物にぬいぐるみを入れて、いなくなっていました。次に、男の子がやってきます。Aからぬいぐるみを取り出し、Bに入れて、いなくなっていました。その後、ぬいぐるみを取りにさっきの女の子がやってきました。ここで問題です。この女の子はどちらの入れ物を探すでしょうか。

もちろん、Aの入れ物ですね。女の子はぬいぐるみがBに移されたことを知らないわけですから。

2歳の子どもは、この問題に「Bだよ。だって、ぬいぐるみはBに入っているから」と答えることが多いそうです。2歳の子にとっては自分の持っている情報がすべてなんですね。だいたい5歳ともなると、この女の子の立場なら「Aに入っている」と思うはず、ということがわかるそうです。当たり前のようですが、これってすごいことです。これは、『相手の立場になって考える』ということなんです。

解剖学の権威であり、医学博士である養老孟司先生によれば、相手の立場になって考えるということは、相手と自分を交換して考えることになる。交換できるということは、自分と相手を同等と見なければできな

いと言っています。つまり、『平等』とは、「すべての人がまったく同じ」という意味ではなく、「互いに相手の立場になって考えること」を意味するのではないのでしょうか。

「こんなことをしたらあの人は助かるんじゃないか」とか「こんな発言はあの人を傷つけるかもしれない」などと、相手の立場にたって考えることのできる自分になれば素敵だと思いませんか？もちろん、簡単なことではありません。自分の感情や都合もありますから。でも、そんなふうに思い続けることで、自分の都合と相手の気持ちの両面にうまく折り合いをつけられることも増えていくかもしれません。

それと同時に、自分のことも大切にしたいです。なにしろ、この世の中にはまったく同じ人がいないのですから。あなたという人はあなただけであり、誰もその代わりにはなれないのです。おそらく、「自分が何者なのか」や「生きることの意味」で悩むこともあるでしょう。歌手の高橋優さんは、「生まれてきた意味ならば後付けでも素晴らしい」と歌っていますし、お笑い芸人の千鳥の大悟さんは「生きる意味なんぞ、死ぬまでに見つけりゃいい」とも言っています。きっといろいろな答えがあるのでしょう。焦って今すぐに答えを出すこともないようです。今の自分ができることを精一杯やってみることが大切ですね。

困っていることや悩みがあれば、すぐに先生やスクールカウンセラーに教えてください。

さあ中学生の皆さん、中学校の3年間でいろいろな人と関わり、その人たちの気持ちを考えてみましょう。また、自分にできることはどんどんやってみましょう。きっと、自分も他人も大切にできるような優しい人になれると思います。

(令和4年 6月23日)



考えてみよう！地域の過ごし方

万騎が原中学校は、横浜市の中でも有数の大規模校です。1000人近い生徒が学校生活を過ごしているので、一斉下校ともなれば地域には生徒があふれることとなります。そこで、皆さんに振り返って欲しいのは、下校時の自分の姿です。道に広がって歩いたり、騒ぎすぎたりしていませんか？状況に応じた行動をとれていますか？

地域には、小さい子どもやお年寄り、妊娠中の方、身体が不自由な方など様々な人がいます。自分にとっては平気なことでも相手の人にとってはどうでしょう？考えてみてください。

この4月から地域の方からも様々なご意見をいただいています。ご注意を受けることもあれば、賞賛していただくこともありました。ある日、駅の近くで倒れている人が救急車で運ばれるまでついていた3年生、ご老人の荷物の運搬を手伝った女子生徒、別の日に台車から落ちた荷物を拾って乗せた男子生徒。地域の人から、それらの優しさに対してお褒めのことばをいただきました。地域と学校が、互いに支えあえるような関係をつくっていきましょう。



第62回 体育祭を終えて

今年の体育祭は、各学年で校外学習と並行して準備を進めてきました。天候にも恵まれない日々が続く、思うように練習ができない中で各クラス試行錯誤しながら予行、そして本番を迎えました。初夏の厳しい暑さの中、感染症予防と熱中症予防に配慮しながら、なんとか無事に終わったことは、体育祭実行員を中心に生徒の皆さんの頑張りがあったからだと思います。また、PTAから生徒に一人一本、お茶を用意していただくなど保護者の方にも多くの場面で支えていただきました。本番当日は、練習の成果を発揮しようと奮闘する姿やクラスの仲間を応援する姿、自分の係の仕事を全うしようとする姿、喜ぶ姿、悔しがる姿など生徒の皆さんのキラキラした姿を見ることができました。

来年以降、今年の3年生の勇姿を見た今の1、2年生で、よりすばらしい体育祭を作り上げてほしいと思います。

保護者の皆様、今後とも万騎が原中学校の活動にご理解、ご協力をお願いいたします。

体育祭実行委員担当教諭 居塚 研志郎



